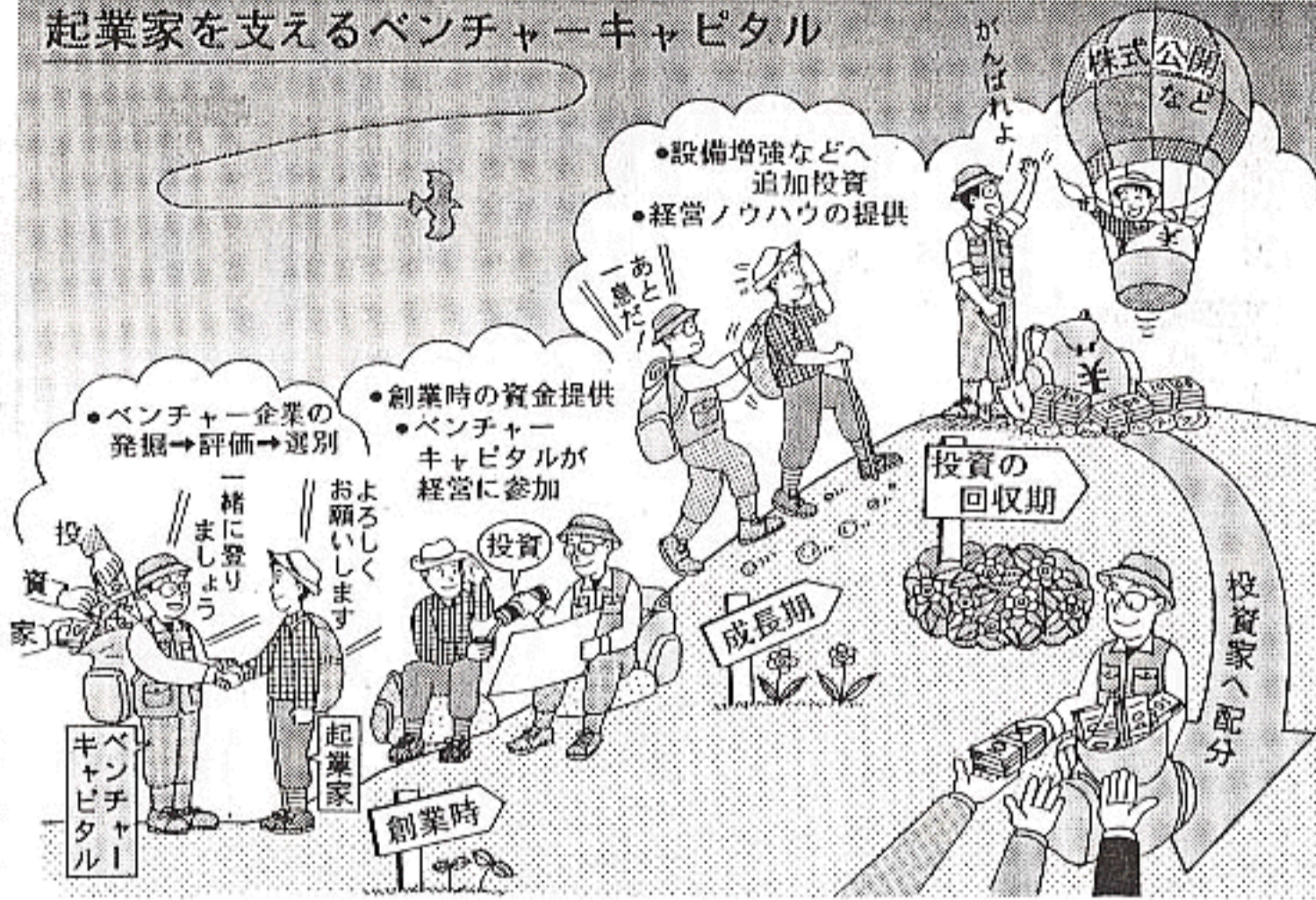


起業家を支えるベンチャーキャピタル



イラスト・北 館夫

創業初期から資金支援  
経営ノウハウまで提供

ベンチャー企業に資金を供給し、その育成の力を握るベンチャーキャピタル(VC)が、変わらぬところにいる。これまでは、ある程度成長した企業への資金供給が中心だったが、ここへきて、見込んだ起業家に創業初期から、資金だけでなく経営ノウハウも提供、経営パートナーになって世に送り出す新しい投資の動きが広がり始めた。雇用の受け皿が求められ、日本経済の再活性化が急務になっている。育成、聖のベンチャー支援の手法が、革新的な企業を次々に誕生させている。かけになるのかどうか。最新の動きを追った。

(稲沢 裕子、浜島 拓也)

育成型VVC  
ベンチャーキャピタル  
広がる

合弁会社で 個人で 市民団体に



合弁会社設立を発表する堀内グロブス社長(左)とパトリコフ氏(右)

「日本には10年前から注目していた。ようやく今、投資先としての条件が整った」

世界有数のVC、米国のパトリコフ社長のアラン・パトリコフ氏は8日、都内のホテルで開かれた投資家向けのセミナーでこう語った。VVCグループ(東京都千代田区)と合弁会社を設立し、7月末までに国内外の投資家から約200億円を集めて、日本でベンチャー投資に乗り出す計画を明らかにした。

同氏は30年前にVCを創業し、アップルコンピュータなど多くの企業を育て上げた。グループ全体で手がけた投資ファンド(基金)は総額約70億ドル(約8000億円)に上るといふ。

「日本でも若く有能な人材が企業を離れ始め、制度も整備されてきた。最大の課題は起業家風土の醸成だが、ここへ、3年で急速に変わるだろう」と強調した。

合弁相手のグロブスも96年から10社に約5億円を投資した実績を持つ。堀内社長は、「投資ノウハウを100%導入し、世界に通用するベンチャー企業を育てたい」と抱負を語る。

日本にはVCが百数十社あるが、大半が証券、銀行など金融機関の子会社で、店頭公開目前まで成長した企業向け資金援助を育てたい」と抱負を語る。

「日本にはVCが百数十社あるが、大半が証券、銀行など金融機関の子会社で、店頭公開目前まで成長した企業向け資金援助を育てたい」と抱負を語る。

日本にはVCが百数十社あるが、大半が証券、銀行など金融機関の子会社で、店頭公開目前まで成長した企業向け資金援助を育てたい」と抱負を語る。

「日本にはVCが百数十社あるが、大半が証券、銀行など金融機関の子会社で、店頭公開目前まで成長した企業向け資金援助を育てたい」と抱負を語る。

日本にはVCが百数十社あるが、大半が証券、銀行など金融機関の子会社で、店頭公開目前まで成長した企業向け資金援助を育てたい」と抱負を語る。

技術やアイデア 厳しく評価  
役員派遣で経営チエック

助や公開引き受け支援などが業務の中心だった。

これに対し、米国型VCは、起業家の技術やアイデアを厳しく評価し、成長が見込める事業ならば、創業初期から経営を全面的に支援する。失敗のリスクも高い反面、企業の急成長によって大きなリターンも得られる

助や公開引き受け支援などが業務の中心だった。

これに対し、米国型VCは、起業家の技術やアイデアを厳しく評価し、成長が見込める事業ならば、創業初期から経営を全面的に支援する。失敗のリスクも高い反面、企業の急成長によって大きなリターンも得られる

助や公開引き受け支援などが業務の中心だった。

これに対し、米国型VCは、起業家の技術やアイデアを厳しく評価し、成長が見込める事業ならば、創業初期から経営を全面的に支援する。失敗のリスクも高い反面、企業の急成長によって大きなリターンも得られる

助や公開引き受け支援などが業務の中心だった。

これに対し、米国型VCは、起業家の技術やアイデアを厳しく評価し、成長が見込める事業ならば、創業初期から経営を全面的に支援する。失敗のリスクも高い反面、企業の急成長によって大きなリターンも得られる

助や公開引き受け支援などが業務の中心だった。

これに対し、米国型VCは、起業家の技術やアイデアを厳しく評価し、成長が見込める事業ならば、創業初期から経営を全面的に支援する。失敗のリスクも高い反面、企業の急成長によって大きなリターンも得られる

助や公開引き受け支援などが業務の中心だった。

これに対し、米国型VCは、起業家の技術やアイデアを厳しく評価し、成長が見込める事業ならば、創業初期から経営を全面的に支援する。失敗のリスクも高い反面、企業の急成長によって大きなリターンも得られる

「おこむら」は、5月10日に掲載します。

「おこむら」は、5月10日に掲載します。

「おこむら」は、5月10日に掲載します。

「おこむら」は、5月10日に掲載します。

「おこむら」は、5月10日に掲載します。